
岐阜県立高山工業高等学校

学 校 長 村 田 和 宏

学校住所 高山市千島町291番地 電話 0577-32-0418

1 会議の名称 令和2年度 岐阜県立高山工業高等学校 学校運営協議会 (第2回)

2 会議の構成 委 員 中野谷 康 司 高山市教育委員会 教育長
石 原 嘉 和 高山市立日枝中学校 校長
角 井 昭 雄 高山市立花里小学校 校長
木戸脇 和 成 育友会 会長
片 桐 敏 彦 千島町自治会 副会長
尾 田 峰 和 元育友会会長 (ご欠席)
草 場 美保子 元育友会副会長 (ご欠席)
反 中 優 子 元育友会副会長
稲 野 千賀子 地区代表
岡 田 梅 代 地区代表 (ご欠席)

(順不同)

学校側 村 田 和 宏 校長
岩 島 義 則 教頭
和 仁 崇 幸 事務長
門 前 雅 人 教務主任
中 口 直 也 生徒指導主事代理
山 下 泰 司 進路指導主事
川 上 登 工業部長
高 松 隆 太 特別活動部長

3 会議の目的 「岐阜県立における学校運営協議会の設置等に関する規則」に基づき、令和2年度の教育方針・重点及び学校課題を説明し、それについての幅広い意見・提言を受け本校教育の改善・充実に資するとともに、開かれた魅力ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 令和2年11月26日(木) 14:30~16:30 高山工業高等学校(会議室)
委員7名と学校側8名が出席

5 会議の概要

- (1) 授業参観 統一LHR テーマ「ひびきあいの日」
- (2) 校長挨拶
- (3) 自己紹介
- (4) 会長、副会長選出
- (5) 会長挨拶
- (6) 教育活動中間報告

教 頭：保護者、生徒による外部アンケート結果

質問項目 37 項目中 34 項目で肯定的な回答が 85%を超えている。働き方改革への取り組みの周知に課題があった。

教 務 部：①令和 4 年度からの新学習指導要領実施に向けた特色ある教育課程の編成

基礎的・基本的な学力の確実な定着、グローバル社会への対応、工業の専門を学ぶための系統的な学習を観点に編成中である。

②新型コロナウイルス対応による休業中の学習支援

臨時休業による授業時間の減少を補うため、夏季及び冬季休業の削減とテスト期間の短縮等で平年の 90%を確保した。また、課題の郵送や配信テストを含め 22 日間のオンライン配信を実施した。

③警報発表時の臨時休業の学習保障

17 回線による 10 日間のオンライン配信を実施した。

④ユニバーサルデザインや I C T を活用した授業実践

障がいの有無にかかわらずだれもがわかりやすいという視点で、環境整備や授業において取り入れているユニバーサルデザインと I C T の活用について説明した。

⑤基礎的・基本的な学力の定着と学習習慣の確立

学習到達度を見る指標が 1 年生と 3 年生で上昇していることを説明するとともに、家庭学習等の自主的な学習や学習習慣の確立に課題があることを説明した。

⑥公開授業週間や研究授業による指導力向上

公開授業週間にオンライン授業を行い、教員が互いにオンライン授業を見る場面を設定することで、教員の指導力向上を図ったことを説明した。

生徒指導部：①交通安全指導

講師を招いた 4 月の交通安全指導は実施できなかったが、教員による登校時の指導やMSリーダーズによる活動、生徒指導だよりでの啓発を実施している。

②遅刻指導

遅刻件数は減少傾向にあり、生徒自身の過失等による遅刻が 60%を占める。

③いじめ関連

関係法令および方針に従い指導している。

④問題行動の発生状況

近年は発生件数が少ない傾向が続いている。

進路指導部：①求人状況

コロナ禍の影響が心配されたが、昨年度の80%に達した。

②進路希望状況

令和2年度の就職希望者は72.2%で昨年度より7.8%減少し、進学希望者は27.8%で7.8%増加した。高山市内での就職希望者は37.6%で昨年度より4.9%増加した。飛騨地域を選んだ生徒も4.4%増加し、就職希望者が減少する中で、地元への就職希望が増加した。

工 業 部：①活力ある高校づくり推進事業について

サテライトキャンパス活動は販売活動を中止しているが、新商品の開発は行っている。プログラミング学習支援活動は小学校で2回、中学校で1回実施を予定している。企業で活躍する卒業生を招いた交流活動「技能里帰りプロジェクト」は中止した。

②新入生の進路選択に関するアンケート

昨年に続き本年度も実施した。中学生は本校の専門教育、就職実績、資格取得を志望理由とし、情報源として高校説明会、中学校教員の話、オープンキャンパスを重視する傾向にある。

特別活動部：①生徒会活動実施状況

臨時休業中、オンラインで生徒会執行部による行事検討を行い、9月に球技大会を実施した。また、生徒総会を校内でオンライン配信し、各教室で実施した。

②飛騨特別支援学校との交流事業

オンラインによる交流会を計画し、12月には絵本の読み聞かせ交流を予定している。

高山工業高校の魅力を発信する取組について

①ホームページによる情報発信

臨時休業期間中も積極的に情報発信に努めた。また、中学生にも本校の最新の情報が伝わるように、ホームページの更新に努めている。

②学校説明DVDの作成

中学校での学校説明会が中止になったため、新たに学校説明DVDを飛騨地

区の中学3年生の学級数分作成し、ポスターと共に配付した。

③オンライン配信

オンライン配信用のタブレットスタンドや対応時間割を作成し、今後起こりうる臨時休業等に即時に対応できる体制を作った。

④高山デンバー60周年記念式典にオンラインで参加

渡米が中止となった代わりに、高山市とデンバー市のオンライン式典に参加し、交流事業に関わった生徒がスピーチを行った。

⑤1日入学、オープンキャンパスの実施

1日入学は119名（中学生）、オープンキャンパスは168名（中学生＋保護者等）の参加があった。オープンキャンパスでは、生徒会長が学校生活を説明し、中学生が興味や関心に従って、校内や部活動を自由に見学できるなど、魅力を高める工夫をした。

<ここで、学校説明DVDを一部視聴>

6 委員からのご意見やご感想等

「本年度の中間報告について」

意見1 義務教育段階までの学力定着が不十分である生徒が多数であるという事実を、中学校側がしっかり受け止めなければならないと改めて意識した。また外部アンケートの結果から、高校でも家庭との連絡を密にとっているということを再認識した。働き方改革の周知が必要ということだが、進捗状況はどうか。

学 校 時間外勤務という概念なしで生徒指導や学校業務を行っていたが、本年度4月から時間外勤務の上限が明確に設定された。教員が心身ともに充実して指導に当たれるよう取り組んでいる。長時間の移動を伴う部活動の引率等、地域性を踏まえた工夫が必要である。

意見2 毎日小学校周辺で交通指導をしているが、本校の生徒はしっかりとあいさつをしてくれる。社会人としての礼儀、素養の育成というところにつながっていると感じている。プログラミングの出前授業でも、主体的に小学生に声をかけていた。高校卒業後に就職する生徒が多いこともあり、就職に向けて主体的に社会に出る準備をしているのではないかと頼もしく感じた。

「魅力を発信する取組について」

意見1 少人数指導を実現させるために教員を増やし、グローバル社会に対応できるよう英語

学習に力を入れるというのは、いつからどのように実施するのか。

学 校 令和4年度の入学生から3年生の英語を全員履修とし、習熟度による少人数指導を引き続き実施したいと考えている。また本年度1月からのALT活用も検討している。

意見2 県外から現在1名の入学者があるということだが、県外への広報に力を入れてアピールすると、志願者増加につながるのではないかと。

意見3 教室内の生徒の荷物がきれいに整頓しており、トイレも大変きれいに改修されていた。新しくきれいな環境によって、生徒は気持ちを高めて授業に取り組むことができると思う。また、学校説明DVDは本校について詳しく説明されていた。生徒会長が女子生徒であり、これからは女性も工業分野の様々な仕事に就いていくので、女子中学生に工業高校の魅力が伝わるとよいと思った。

意見4 女子生徒会長の活躍場面を作ったのは、とてもよいと思った。また、教室にエアコンが設置され、トイレもきれいになり、環境が良くなった。プログラミングの出前授業は他の小学校にも活動を広げてほしい。

意見5 冬は市内道路の積雪や路面凍結で、通学環境が悪くなる。下校時に自転車に乗りながらスマートフォンを使用している生徒を見かけたので、事故にあわないよう指導していただきたい。

7 会議のまとめ

第2回学校運営協議会では、委員の皆様に来校していただき、授業参観や施設見学等を通して、生徒の活動の様子や学習環境をご覧いただいた。本日委員の皆様より頂いたご意見やご感想を今後の学校運営に生かしてまいります。